

C-up ワールド

2002 年 2 月 3 月 合併号

2002 年 1 月～2 月の山行記録

△△△△△△△△△△△△△△△△

講習山行

ハヶ岳 横岳・西壁・小同心クラック

1月19日～1月20日

天候・気温

晴 平年より暖か

参加者

原直之、吉国好道 (本科生)
山本篤 (講師)

行程

一日目：茅野駅一車→美濃戸口→赤岳鉱泉
(小屋泊)
二日目：赤岳鉱泉→小同心クラック→赤岳→
文三郎尾根→行者小屋→赤岳鉱泉→美濃戸口
一車→茅野駅

山行のポイント

入門的なバリエーションであるが、しっかりと
とした技術が要求される。

感想

初めての冬季バリエーションルートという事
で、期待半分、不安半分で参加した。岩登り

としては、ホールド、スタンス共にあったが、
アイゼンに手袋というスタイルだったので、
今迄とは少々感覚が違った。

4ピッチのうち、特にはじめの1ピッチ目が
指先の冷たさを痛感した。

講師曰く、「それは我慢するしかない。」
なるほど、そういうものかと思った。

また、冬期登攀には、ピッケルも重要な道具
である事も実感した。

登攀を終え、横岳の頂上に出た時の、富士山
はじめ南、中央、北アルプスの大パノラマは、
とても感動した。

報告者：原直之

△△△△△△△△△△△△△△△△

講習山行

アイスクライミングを学ぶ会

笛吹川凍沢・鷹見岩出合付近

1月26日～1月27日

参加者

小松清貴、茨木嘉道、伊藤稔、柴崎るみ子、
中島和美、末木俊之、新井元治、新井かよ子
(本科生)

日野千江子、水上宏一郎、長田幸子 (CU)

森幸洋 (シニア) 佐野正男 (ゲスト)

矢田実(同人)

和田佳明、松浦寿治、工藤寿人(講師)計 17 名

行程

一日目：塩山駅付近泊
二日目：笛吹川東沢鷹見岩出合ゲレンデ

本講習のポイント

- ・ フラットフットイング
- ・ バイルの打ち方
- ・ 足の蹴り込みと踵の状態
- ・ 足と手のタイミング

感想

前夜来の雪の塩山を出発し、東沢鷹見岩出合ゲレンデに於いて雪と雨がパラ付く中の講習。初めてなので、たどたどしく2本登りましたが、3本目には腕の力皆無となりバイルが入らず2度も落下、それでも水上氏には親切に根気よくビレイしていただきました。

和田講師が、素振り〇〇百回と言っていたのが解りました！

雨も止み皆さんバンバンと登り、今回私には難しかったですが、是非基本的な力を付けてまた挑戦してみたいアイスクライミングでした。

報告者 新井かよ子



気温が中途半端に高く、融雪して、また冷えて固まるような状況では、皮膚についた湿気が凍って凍傷のリスクもあがります。

厳冬期よりも融雪期の冷たい風の方が湿度が高いために顔面の凍傷などは起こしやすいとの指摘もあります。



講習山行

(基本ステップ/ラッセル技術を学ぶ会)

土樽・タカマタギ山

2月2日～2月3日

参加者

原直之、浅野洋一郎、水上宏一郎、茨木嘉道、渡部吉実、長田幸子、柴崎るみ子、中島和美、末木俊之、新井元治、田口浩昭、横川秀樹

(本科生)

小林正明(ゲスト)

岩本一郎(研究生)

沢口千鶴子、坂口理子、松本善行(同人)

金沢和則、松浦寿治(講師)

計19名

行程

一日目：夕発で土樽駅。土樽駅にて仮眠。

二日目：6:00 土樽駅～平標山登山口～棒立尾根～棒立山山頂目前で時間切れの為撤退。同じルートを下山。

本山行のポイント

- ・ ワカンを用いてのラッセル
- ・ 3名1班となり、交代でラッセルを行う。3人終了で最後尾に廻る。
- ・ ラッセルの交代は、なるべく汗をかく前に行う。
- ・ ルートの確認は2番目、3番目が行う。
- ・ 雪庇に踏み入らないように注意する。
- ・ トラバースは斜面の雪を切断する為、雪崩を引き起こす場合がある。
- ・ 体力の消耗を小さくするように、なるべく楽な体勢でラッセルを行う。

感想

今回は雪がしまっていた為、ワカンが有効に効いた。雪質や積雪状態によって、激しいラッセルを強いられるようである。急登でのラ

ッセルはきつく、時間にして10分ももたなかった。夏山と違い、ルートがはっきり分からないので、読図力が必要。

負荷、雪訓、冬合宿、ラッセルを通して痛感したのですが、冬山はホント体力、気力勝負ですね。

報告者 長田幸子

△△△△△△△△△△△△△△

今年の春は異常なほど早くやってきました。3月中に東京や大阪では桜が満開になりそうです。

けれども、山の上の気象は千差万別です。とくに、なだれのシーズンでもあります。なだれピーコンは必ず持っていきましょう。

△△△△△△△△△△△△△△

講習山行

(基本ステップ/スノーシューを楽しむ会)

日光・切込湖～刈込湖

2月23日～2月24日

参加者

末木俊之・山野昭人・山野美香、山口慶子(本科生) 長田幸子・矢沢悦子(CU・本科生) 佐々木恵子(遠足)、阿出川忍(ゲスト) 沢口千鶴子(同人) 松浦寿治(講師) 計10名

行程

一日目：ペンションアイリス前でスノーシューの装着を学び、付近の雪原と斜面で歩き方の練習

二日目：三本松(アイリス)ー光徳牧場ー山王峠ー涸沼ー切込湖ー刈込湖ー三岳北西の副峰ー小峠ー湯元

本山行のポイント

光徳牧場から山王峠へ向かう途中、斜面がでてきました。25度くらいですが、直登すると結構急です。前日学んだキックステップで登って行きます。涸沼へも直下降。長田さんと矢沢さんの手本を真似て、後ろ向きで降りました。涸沼も真っ只中を横断。ここでもスノーシューが威力を発揮します。かなりの深雪も難なく突破でき、気分爽快! 切込湖・刈込湖も湖面の上を歩きましたが下が湖だと思ふと不安がよぎります。刈込湖から先は登山道から全く離れ、トップの長田さんと矢沢さんが踏み後の全く無いところをキックステップでグイグイ登って行きます。(頼もしい!) 今回の講習で、山岳用スノーシューに対する理解がかなり深まったように思います。装着も工具要らずで靴も選びません。蹴り込みも効き、急斜面でも登れます。浮力も十分です。不得意なのは凍った斜面と湿った雪だと思いました。湯元間近の湿雪が団子になってしまい、スノーシューが急に重くなりました。湖畔と湖面のさかい? で夫婦共々足がはまり、矢沢さんに助けていただきました。あの溝は何だったのか未だに謎。無雪期に行つて確認したいです。

感想

スノーシューの機能に驚きました。浮力はもちろん、かかとをフリーにしたり固定したりできるので、平原が歩きやすいばかりか、経験の浅い私でも急斜面を楽に登れました。蹴り込んだ後の接地面積が広いからだと思います。爪があるのでグリップもあり、堅めの雪面も安心でした。行動範囲がかなり広がる装備だと思いました。

道無き道に行くのは気持ちの良いものですね。

報告者 山野昭人

△△△△△△△△△△△△△△

夜間を含め、17時間以上の歩行を行う訓練をカモシカ山行としています。

語源は探索中。ご存知の方はご教示ください。実際の山行で長時間、そして夜間の歩行を強いられる状況となっても対応できるよう、訓練しておくものです。

今回、吉国さんから昨年秋の単独での自主訓練についてご報告がありましたのでご紹介します。

△△△△△△△△△△△△△△

自主山行
カモシカ山行
西丹沢
2001年11月17日~18日

参加者
吉国好道 (本科生)

天候
晴

行程
一日目：15:00 大滝キャンプ場発→16:20 軒屋避難小屋→17:00 大滝滝上→18:00 畦ヶ丸→道を間違っ北東尾根へ→18:55 畦ヶ丸→19:15 モロクボ沢の頭→19:55 バン木の頭→21:30 白石峠→23:50 大室山→
二日目：→1:00 犬越峠-仮眠-5:00 犬越峠→7:30 檜洞丸→8:15 テシロの頭→8:45 石棚山→10:00 小川谷出合→11:00 玄倉→13:00 大滝キャンプ場

本山行のポイント

モロクボ沢の頭から白石峠間は笹が頭上を越えるほどに繁茂し、左側には崖となったところもある。加入道山の前後も足場が悪い。

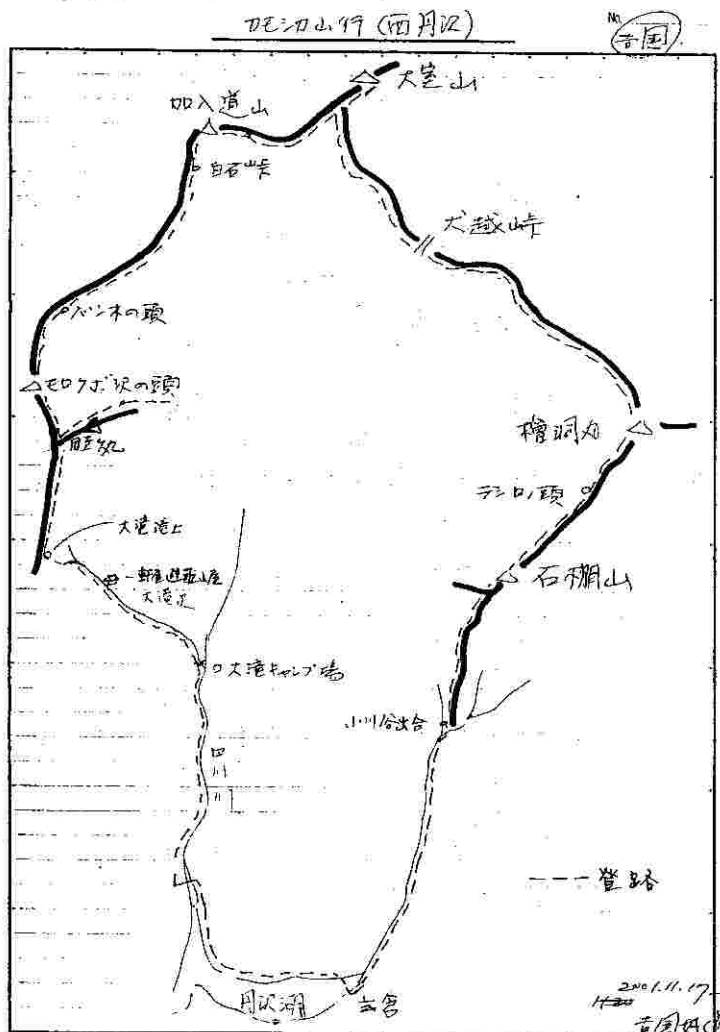
感想

大滝沢の道は薄暮のため、時に道を見失った。暗くなってからの沢沿いの道は大変難しいと思った。

畦ヶ丸から道を誤ったが、このためにあせり疲労が倍加した。

老眼の為、暗いところでは物がよく見えないし遠近感も悪くなるが、ストックを利用して下りが特に楽であった。

報告者 吉国好道



自主山行

山スキー

根子岳、四阿山

2月23日～2月24日

参加者

岩本一郎 (研究生) 幡鎌亮一 (同人)
宮下裕史 (講師) (計3名)

行程

一日目: 東京→上野→大宮→上田→四阿高原
ホテル→徒歩→根子岳登山口→根子岳→根
子岳登山口→タクシー→四阿高原ホテル泊
二日目: 四阿高原ホテル→四阿山→四阿高原
ホテル→上田→大宮→上野→東京

本山行のポイント

根子岳へは四阿高原から牧場の道をたどって
根子岳登山口に至り、ヘリスキーコースとは
異なる尾根を往復した。

四阿山へは四阿高原ホテルから、広い尾根を
往復した。方向を確認しながら登降した。
縦走ルートへの発展も考慮して地形なども確
認してきた。

感想

天候にも恵まれ、希望どおり根子岳、四阿山
に登頂できました。全体に堅雪で滑りはあま
り気持ち良くなかったですが、2日間の山行
としてはうまくまとまったかなと思っています。
報告者 岩本一郎

△△△△△△△△△△△△△△△△

山スキーのシーズンとなりました。
松浦さんお薦めの登山靴スキーはこれまでは
ビンディングとしてジルプレッタがほぼ占有
状態でしたが、ワンタッチのディアミールも
最も旧型以外のタイプでは登山靴装着が可能
です。お試しあれ。

自主山行

ハッ岳 旭岳東稜

2月23日～2月24日

参加者

坂口理子、矢田実、松本善行 (同人)
金沢和則 (講師) (計4名)

行程

一日目: 起床5:00-美しの森駐車場出発6:
58-出合小屋着9:13-取り付き9:30-休
憩・用意-取り付き開始10:40-ワンポイン
ト下り前着12:00-テン場着13:40
二日目: 起床4:00-出発6:40-五段の宮取
り付き着8:25-登攀開始8:50頃-旭岳山
頂(終了点)15:00~15:30 ツルネ着16:20
-出合小屋着17:30-美しの森駐車場着
19:30

本山行のポイント

2月23日: 晴れ。美しの森駐車場から出合小
屋までは、パッチリのトレース。我々の他に
3パーティほどがいたが、皆、天狗尾根・ツ
ルネ東稜などに散ってしまい、旭岳東稜は
我々の貸し切りとなった。バンザイ! 尾根の
突端から取り付く。何日か前のものようだ
が、トレースが残っているので、それを追っ
て登る。ワンポイント下りの手前で、ザイル
をフィックスする。右の権現沢右俣側がスッ
パリ切れて、かなりの高度感。落ちたら助か
らないだろうなー、と思いつつ、慎重にザイ
ルを伝う。その先の急登を登ったところで、
テン場とする。丁寧に整地すれば、小さめ2
~3張りはなんとか張れるだろうか。風もな
く静かな夜だった...But、テントの中は映画音
楽大会で盛り上がっていましたが (笑)。

2月24日: 晴れ、無風。朝一番、いきなりの
急登である。雪のつき方によってはザイルが
ほしいしれない。2時間弱で、核心部「五段

ノ宮」の岩場につく。岩稜は雪がついているので、左側の草付きの壁を登る。今回はツルべでなく、リードがザイルをフィックスして全員が続く形をとる。1P目、矢田さんリード。半分ほど登ったところで、スタンスが崩れ、滑落。灌木にとったランナーが効いて、止まる。斜面を転がったため、ビレイしていた金沢さんにはほとんど衝撃が来なかったようだ。バイルをなくして悔しがりつつ、登りかえす矢田さんのアドレナリンに大拍手！2P目、まっちゃんのリード。この2ピッチは、本当に悪かった。中途半端な雪のつきかたでバイルがきかず、いやらしい。結局、私はゴボウでなんとか登った。リードにひたすら感謝しつつ、力不足を痛感。残りの雪稜3ピッチは金沢さんがリード。なんだかんだで、旭岳山頂についたのは15:00を回っていた。怒濤のいきおいでツルネ東稜を下降。なんと50分でお出合小屋まで戻ってきてしまった！しかし、それからの林道が長かった…。疲れた身に林道はツライ。19:30、ようやく美しの森駐車場着。一路、東京へとひた走ったのでありました。

感想

私自身の登攀スピードの遅さ、ザイルワークの悪さで、核心を抜けるのに非常に時間がかかってしまいました。自分の力不足を痛感しました。本当に大事なものは「登れるか登れないか」ではなく、「登れなかった時に何が出来るか」なのだと思います。また、何をやるにおいても「億劫がらない」こと。ザイルのセットなど、面倒がる必要のないほどすみやかにできるように習熟しなければと思います。今回のメンバーである、金沢さん・矢田さん・松本さん、本当にお世話をおかけしました。ありがとうございました。 報告者 坂口理子



編集局からの詫言とお知らせ

1月号の講習山行硫黄岳と赤岳の報告者は末木俊之さん(本科生)でした。

お詫びして訂正いたします。m()m

さて、今回は発行日調整のため合併号とさせていただきます。次回は4月に4月号発行予定です。講習・自主いずれの山行報告もご提出、よろしくお願ひします。特に講習山行はできるだけ本科生の皆様にお願ひしています。報告することが山行を検証する機会になることを期待しています。

ご報告は無名山塾ホームページの山行報告入力フォームで送信されると自動的に編集局に登録されますのでご活用ください。もちろんFAX その他で山塾サポートへお送りいただいても結構です。

また、山道具やテント生活そのほかに関する楽しい原稿もお寄せください。お待ちしております。

アドレス

C-UP ワールド

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/>

無名山塾

<http://www.sanjc.com>

山塾サポート

RXL13656@nifty.ne.jp

Phone & Fax 03-3600-3570

i モードホームページ

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/i.htm>